相手の仕事が動くところまで

「やりました」と報告した。その先で、相手は何を進められるでしょうか。



できていたことを土台に

相手と目的や問題を共有し、
新しい役割を担うための
訓練です。

相手が使う場面を見る

仕事を渡した先で、
相手は何を決め、
誰の役に立つのでしょうか。

自分の担当　⟶ 相手の仕事　⟶ 相手の先にいる人

最近の一件に、3〜4ページの11の問いから一つ選びます。

2021年5月26日原発表／旧PDF記載日5月27日。挿絵は使う場面を表す補助図です。

高い実務能力を 新たな役割へつなぐ

原図から、プレイヤーの高い実務能力とリーダーの新しい仕事を比べます。

比べる点	プレイヤーの高い実務能力	リーダーが担う新しい仕事
成果への進み方	決められた範囲で、 ミスなく速く仕事を進める。	今の事実を捉え、目指す状態と 進め方の仮説をつくる。
計画と最初の一歩	目標から、やることを 手順や計画にする。	具体的な手本がなくても、 まず試す一歩を選ぶ。
事実の使い方	過去のデータや事例を踏まえ、 根拠を示して説明する。	試して得た事実を相手の立場 から見直し、次の仮説を試す。

相手の立場で事実を見直し、目指す状態が実現するまで試し直す。

旧PDF p.2の二つの図から、実務能力と新たな役割に関わる要点を再構成。

目的から 最初の一歩まで具体化する

相手の事情と実際の仕事を見ながら、問いへの答えを変えていきます。

01	目的は何か	指示への対処で終えず、そもそも どのような状態をつくりたいかを描く。
02	相手の内面はどうなのか	ひとくくりにせず、具体的な相手の 事情・都合・気がかりを確かめる。
03	聴いたことは本当に正しいのか	一般論だけで納得せず、実物や経験を 通じて、自分でも確かめる。
04	今から解くべき具体的な問題は何か	目的と現状を比べて、 いま取り組む問題を自分で選ぶ。
05	問題を解くやり方の仮説は何か	過去のやり方をそのまま当てはめず、 この相手・この問題に合う方法を考える。
06	具体的に今何からはじめるのか	曖昧な決意で終えず、 すぐ動ける最初の行動まで決める。

旧PDF p.3の問い①〜⑥。原意を保ち、現在の仕事で確かめられる言葉へ整えました。

自分で選び 相手と問題を握る

否定的な反応の後も、大目的・現状・今解く問題を一緒に確かめます。

07　これらは自分で決めたことか

自分が引き受けることを、言葉にする。

08　相手の興味をどう引き出すか

相手の事情に合う伝え方を考える。

09　自分から動くには

周囲を待つだけでなく、関わる一歩を選ぶ。

10　今の行動は大目的に近づくか

部分的な達成感と、目的への前進を見比べる。

11 否定的な反応の直後に、どう相手に踏み込むか

大目的
相手は何を実現したいか

→

現状
いま何が起きているか

→

今解く問題
何から一緒に取り組むか

相手の意思を尊重し、関わる範囲を相談して進めます。

旧PDF p.3の問い⑦〜⑪／2026年10月25日公開本文に基づき再構成。

否定的な反応から 共に解く問題へ

以下は、第11問の関わり方を考えるための補助例です。実際の顧客記録ではありません。



大目的を一緒に確かめる

相手は何を
実現したいのか。

現状を一緒に確かめる

いまの作業で、
何が引っかかっているか。

今解く問題を共有する

何からなら
一緒に取り組めるか。

相手の意思を尊重し、関わる範囲を相談して進めます。

旧PDF p.3⑪／2026年10月25日公開本文。相手の反応を回避して終えず、共に確かめる。

相手から分かったことを 次の関わりへ

すべてを埋めることより、一つの問いで見立てがどう変わったかを残します。

扱う一件と 相手が進めたいこと

仕事・相手：

選んだ問い：

確かめる前の見立て

相手の話や実物から分かったこと

一緒に確かめた大目的・現状・今解く問題：

相談した関わる範囲と 次に試す一歩：

次に見る結果と 確かめ直す日：

旧PDFの11の問いと現行本文に基づく活用書式。記入した内容を、相手との相談へ持ち寄ります。

原記録の意味を保って 実践を続ける

研究で現場の理解を深め、相手が納得して進める関わりを実際の仕事で確かめます。

当時の現場の捉え方

「10人中1人いれば良いほう」

新たな挑戦や人の育成を伝えられ、その役割を担っていけるリーダー候補を、当時関わった現場でどう捉えたかという記述です。

当時の研究基盤

「約320,000人の行動データ」

旧PDFの比較図が記した、当時の研究基盤の規模です。「10人中1人」の集計対象や、本訓練の効果測定の人数とは区別します。

自分で目的を描き 相手と次の一歩を考える実践へ

スマートクリエイティブマネジメント総合研究所とABAオペレーションズ研究センターの共働研究から整理した11の問い。現在も、個別の仕事で得た事実と相手の反応から、次の関わりを考えるために使います。

出典：2021年発表・旧PDF pp.1〜3／原図p.2／2026年10月25日公開本文。旧原本は変更していません。